

Ⅲ-7 コミュニティ形成機能調査

身近にある公園や広場は、子どもの遊び場としてだけでなく、自治会や学校などの地域に根差す団体の活動の場として、また、環境・社会教育団体など地域にとどまらない同じ目的を持ったグループの活動場所としても機能し、多様なコミュニティ形成空間としての機能を持っている。

そこで、本項では以下の観点から、コミュニティ形成に資する目黒区のみどりの機能について調査を行った。

コミュニティ形成機能の観点

コミュニティ活動の場

- ・地域コミュニティにとって、社寺や公園は地域のお祭りや様々な活動の場として機能する。一方、生活様式の多様化の中で、地域に限定されない環境学習やスポーツなど目的に応じて多くの人が集まるコミュニティも多くなっており、このような「コミュニティ」にとっても、公園や樹林地などのみどりは、環境学習の場・スポーツの場・趣味を実現する場として機能する。

観光イベント・歴史的祭事

- ・広域的な観光イベントにとって、多くの人が集まり、様々なイベントを開催する場としての公園緑地は、イベントの顔となり、イベントを多様に展開できる空間として機能する。また、歴史的祭事が行われる社寺などにとって、社寺林はその歴史を現在に伝える祭りの背景として機能する。

1. コミュニティ活動の場

目黒区においては、公園等を様々な団体が使用している。2012（平成24）年度の団体による公園の使用実績を表Ⅲ-7-1に示す。使用実績は、2012（平成24）年度のみどりと公園課への申請実績および、2012（平成24）年度発行の「めぐろ区報」に掲載された公園等での催事を集計した。

これによれば、2012（平成24）年度は138団体が目黒区内の公園を使用していた。これらのうち、最も多く公園を使用していた団体は、「自治会・町会・住区住民会議」であり、48団体が使用している。ついで、「目黒区部署・公共団体（目黒警察署など）」の28団体、「小学校・保育園・幼稚園」の16団体が続く。もっとも使用団体数が少ないのは「老人クラブ」であった。

一方、使用された公園でみると、2012（平成24）年度に使用された公園は74箇所であった。目黒区内の公園数は150箇所であるため、2012（平成24）年度に団体などにより使用されなかった公園は76箇所であった（ただし、区に申請がなかった団体使用は除く。）。

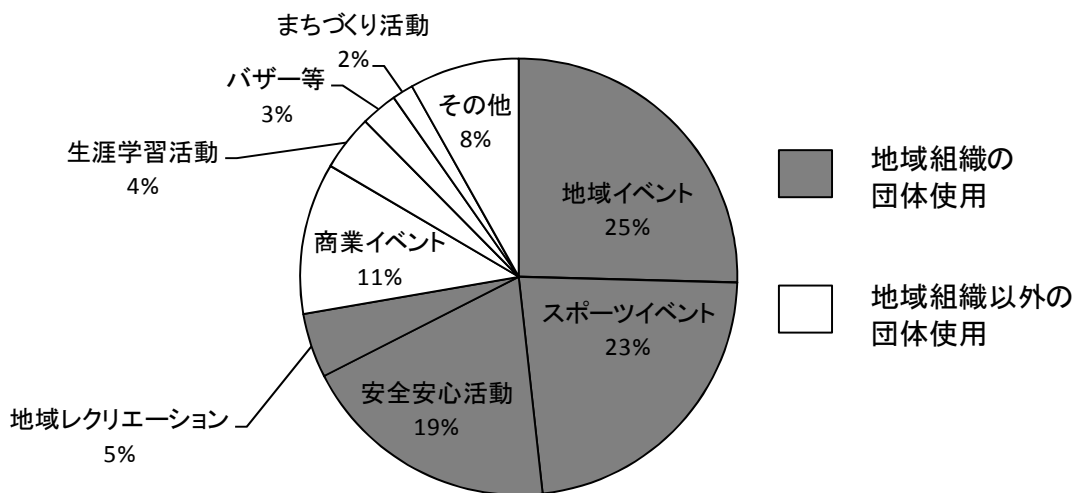
表Ⅲ-7-1 団体による公園使用実績（2012（平成24）年度）

公園種別	団体使用実績公園箇所数	公園箇所数	団体使用公園率（％）	公園使用団体										総計
				自治会・町会・住区住民会議	老人クラブ	子育て・育成団体、児童館	小学校・保育園・幼稚園	商店街	イベント団体	環境・まちづくり団体	企業	任意団体	目黒区部署・公共団体	
街区公園	17 / 24	70.8	15	1	6	7				5	2	6	42	
近隣公園	5 / 5	100.0			1				1	2	1	4	9	
地区公園	2 / 2	100.0								3		2	5	
都市緑地	14 / 39	35.9	8		1	3	1			2	1	6	22	
緑道	4 / 10	40.0	3			1	1						5	
児童遊園	21 / 49	42.9	15		1	2	1		1	7		4	31	
ふれあい広場	8 / 10	80.0	3			2	5	1	2		2	3	18	
遊び場	1 / 9	11.1	1			1	1					1	4	
都立公園	2 / 2	100.0										2	2	
総計	74 / 150	49.3	45	1	9	16	9	2	8	14	6	28	138	

公園種別では、街区公園で 42 団体、児童遊園が 31 団体、都市緑地が 22 団体であり、これらの 3 種の公園緑地で総団体数の 68.8%を占める。

以上の、使用団体の状況を鑑みるに、自治会・町会などの地域団体や小学校など地域に根差した教育機関などの使用が多いこと、また、街区公園・児童遊園といった、比較的面積が小さい公園緑地が地域の団体に多く使用されていること（自治会など 45 団体中 30 団体が街区公園・児童遊園を使用）から、目黒区における団体での公園使用について、地域の活動に根差した使用が行われているものと考えられる。一方で約 50%の公園の使用実績が確認できなかった。

コミュニティ団体使用の中心は、自治会・町会や商店街などの地域のつながりの中で集まる団体であるため、使用形態別で見ると、地域のお祭りやスポーツイベント・交通安全・防犯防災活動が全体の 7 割を占めている。一方で、環境学習やその他の学習や、まちづくり活動やイベント等を行っている例も 3 割程度ある。これらは、有志の区民による環境・まちづくり団体等が行っているもので、地域組織単位のコミュニティとは異なる、共通の目的や趣味などによってつながるコミュニティである。このように、様々な動機を持つコミュニティが公園を使用することから、コミュニティ形成の場としての公園の機能は、多様性が求められるようになってきている。



図Ⅲ-7-1 公園使用（団体）の形態別内訳（2013（平成 25）年度）

表Ⅲ-7-2 使用形態別の公園使用団体日数(2012(平成24)年度)

(単位:日)

公園種別	地域イベント	地域レクリエーション	安全安心活動	スポーツイベント	観光・商業イベント	環境学習	その他学習	まちづくりイベント	まちづくり活動	バザー・フリーマーケット	集会	行政イベント	総計
街区公園	41	15	76	111	2	3	18						266
近隣公園		6		5	3	1						5	20
地区公園				10		2							12
都市緑地	43	10	24	2	2	3	1					5	90
緑道	40	1		1	3								45
児童遊園	60	1	44	34	3	2		3					147
ふれあい広場	11	2	3	3	64	1	1		9	21	45	3	163
遊び場	2	2	2	9	10							3	28
都立公園				2								2	4
総計	197	37	149	177	87	12	20	3	9	21	45	18	775

※使用日数は、2012(平成24)年度のみどりと公園課への申請実績および、2012(平成24)年度発行の「めぐろ区報」に掲載された公園での催事を集計した。

住民参加による公園の維持管理活動は、地域のニーズに合った公園の有効活用に道を開き、住民にとって公園がより身近で親しみあるものとなる。また、このような活動を通して、公園使用が活性化すれば、地域の住民の方々の交流が活発になり、地域のコミュニティ活動も活性化するものと考えられる。1986（昭和 61）年の駒場野公園開園時から、公園内の雑木林等の里山管理を区民の参加で行う駒場野自然クラブの活動が開始されている。

また、1997（平成 9）年からは地域住民 3 世帯以上で 1 つのグループを作り、公園や緑道等の花壇を手入れする登録制のボランティア団体制度「グリーンクラブ」を実施している。

活動は、自分たちで作る植栽計画書に基づき、春（3 月）・夏（6 月）・冬（12 月）の年 3 回、区が配布する花苗を指定された花壇に植え付け、年間を通じて花壇の維持管理をしている。

グリーンクラブの活動場所の内訳を表Ⅲ-7-3に示す。

2014（平成 26）年 4 月 1 日現在、グリーンクラブの数は 89 団体あり、うち、58 団体が公園で花壇づくりを行っている。これは、目黒区内の公園 150 公園に対し、38.7%の実施率となっている。グリーンクラブでは、公園だけではなく、道路緑地（8 団体）、住区センター（4 団体）、その他（5 箇所）においても活動しており、みどりを通じたコミュニティの形成が公園にとどまらず展開している。

また、目黒区では「住民参加による公園活性化のための要綱（2001（平成 13）年 2 月要綱策定）」により、公園清掃・花壇管理、イベント企画運営をおこなうボランティア団体を公園活動登録団体として支援している（表Ⅲ-7-4）。2014（平成 26）年度 4 月 1 日現在で 17 団体が登録されている。これらの団体は、主に地区・近隣公園規模の 5 公園で活動しており、中目黒公園では 6 団体、目黒天空庭園で 4 団体、駒場野公園で 3 団体、東山公園で 2 団体、菅刈公園・碑文谷公園で各 1 団体となっている。これらの団体の活動は多岐にわたっており、公園の清掃から、イベント実施。自然観察活動、犬の飼い主のマナー向上などさまざまである。また、様々な出自の参加者が同じ目的を持って活動している例も少なくはない。

表Ⅲ-7-3 グリーンクラブ活動場所別内訳

公園	緑道	児童遊園	区道	都道	住区センター	その他	計
38	20	14	6	2	4	5	89

表Ⅲ-7-4 公園活動登録団体

活動場所	名称	主な活動内容
菅刈公園	NPO法人菅刈ネット 21	公園の清掃、除草、グリーンクラブ活動、イベントの実施、業務の受託
碑文谷公園	碑文谷公園くらぶ	公園の清掃、除草、グリーンクラブ活動、イベントの実施
中目黒公園	さーくる・ガーデン・クラブ	公園の花壇運営管理、講習会の実施
	いきもの池・原っぱクラブ	公園の生物調査保全、自然観察活動
	なかメディアボードクラブ	公園利用者間のコミュニケーションと安全・快適な運営活動
	健康とスポーツ 2002 クラブ	公園の広場の健全な運営と活性化
	有機クラブ	有機堆肥づくりと公園内の土壌改良育成・保全活動、収穫イベントの実施
	中目黒わんわんクラブ	公園を利用する犬の飼い主のルール遵守とマナー向上活動
駒場野公園	駒場野ホテルの会	公園環境の保全、公園水辺環境の改善、ホテルの育成
	こまばりサイクルの会	生ごみ堆肥づくりと公園内の土壌改良育成
	森のみどり人	公園雑木林管理、植生調査
東山公園	目黒サンクチュアリーズ	公園の生物調査・保全、自然観察活動
	めぐろ遊び場づくりの会	地域住民や乳幼児の保護者が交流する遊び場づくり活動
目黒天空庭園 ・ オーパス夢ひろば	NPO法人大橋エリアマネジメント協議会	公園の清掃、除草、イベントの実施、業務の受託、ボランティア団体の調整
	目黒天空庭園栽培ガーデニングクラブ	ブドウ・野菜の栽培、収穫イベントの実施
	オーパス夢ひろば運動・スポーツ・遊びクラブ	広場の健全な運営と活性化、地域住民の健康づくりと交流、清掃活動
	オーパス・ドッグ・クラブ	犬のお散歩ルールやマナーの向上、交流活動

※都市整備部事業概要（2013（平成25）年度実績）より

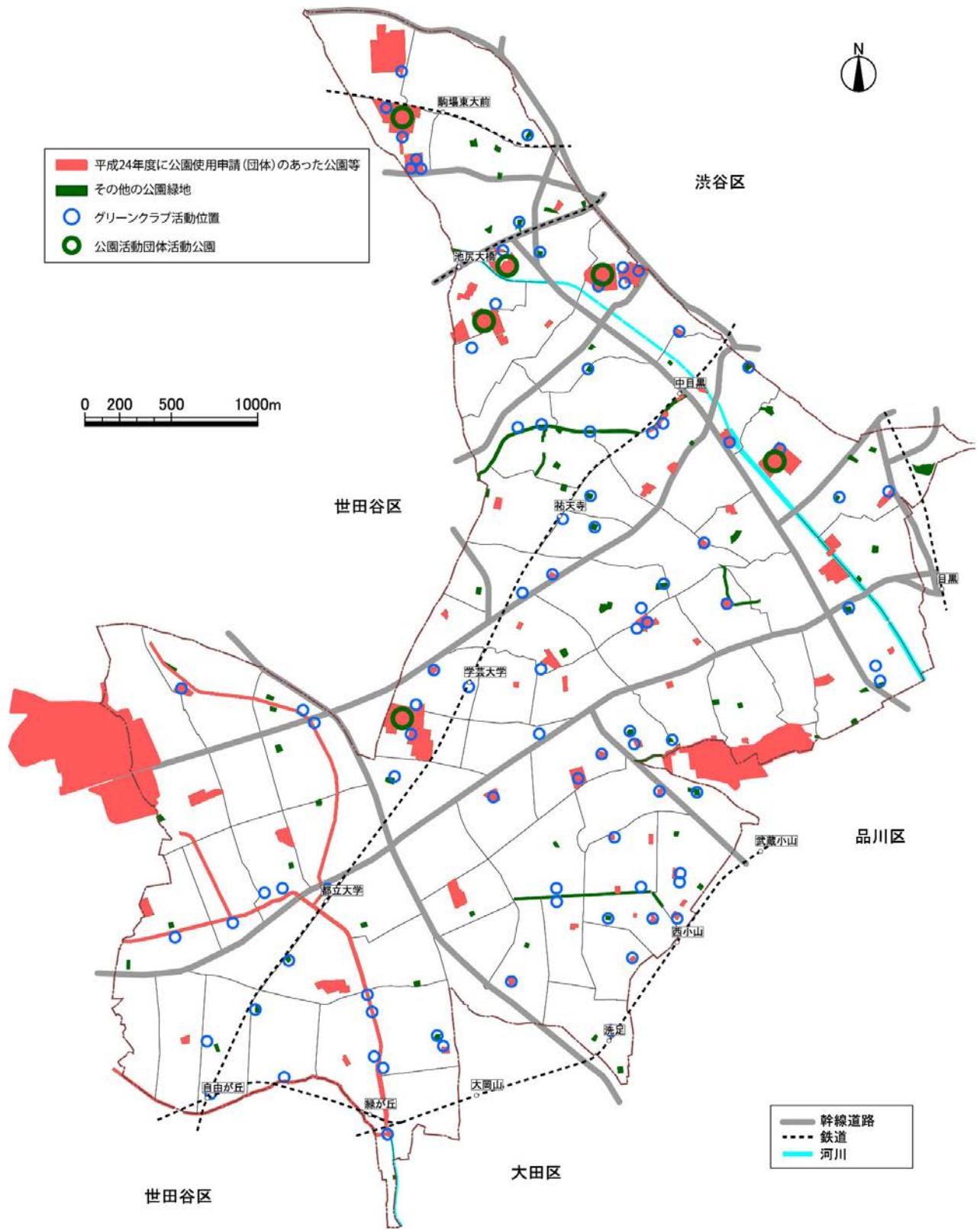


左：グリーンクラブの活動（祐天寺）



右：駒場野自然クラブの活動

写真Ⅲ-7-1 グリーンクラブと区民参加の公園管理活動の例



図Ⅲ-7-2 コミュニティによる公園使用

2. 観光イベント・歴史的祭事

区民が誇りを持って共有できる目黒区特有の資源は、コミュニティの形成・維持に大変有用なものである。それは、単に歴史ある建造物や、ランドマークになるような公園緑地といった具体的な事物だけでなく、祭りや伝統芸能などの活動もその対象となる。

たとえば、目黒区の場合、落語「目黒のさんま」にちなんだ9月の「目黒のSUNまつり」や、各地の「さくらまつり」、また歴史ある社寺の行事として、大鳥神社の酉の市、龍泉寺(目黒不動尊)の甘藷まつりなども、目黒区民にとって、目黒や自分の住まう地域を誇りに思える大きな要素である。

目黒区内における、大きな観光イベントや社寺における歴史的祭事の事例として、めぐろ観光まちづくり協会や目黒区ホームページなどの資料からまとめた結果を表Ⅲ-7-5に示す。

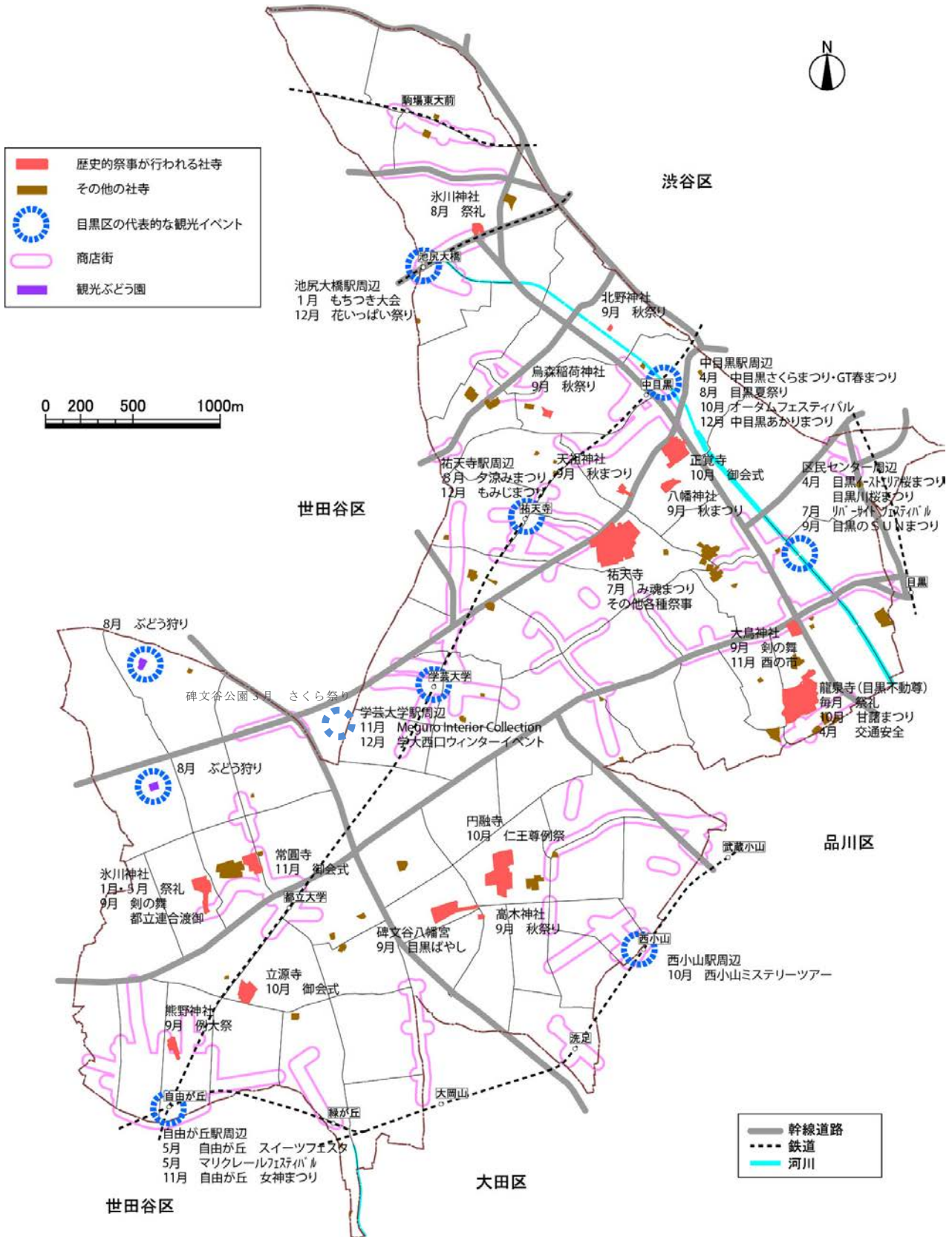
観光イベントは、主に区内の駅周辺で商店街などが主体で行っているものが多い。この中で、区民センター周辺で行われるイベントや観光ブドウ園で行われるぶどう狩りについては、最寄の駅から遠く、他の観光イベントに比してアクセス条件が悪いものとなっている。一方で、これらのイベントのうち、区民センター周辺と中目黒駅周辺のイベントで公園緑地が活用されている。

社寺の祭事に関しては、毎月の例祭やその他の祭事を行っているものもあるが、主には夏から秋にかけてのものが中心である。社寺については、区内でもまとまりのある樹林地を有しているものも多く、これらの樹林地は「鎮守の森」とよばれ、伝統的な祭事とともに、古くからの生活文化を現代に継承している。

表Ⅲ-7-5 目黒区内の主な観光イベントと歴史的祭事

月	観光イベント	月	社寺祭事
1月	池尻大橋駅周辺 もちつき大会	1月	氷川神社 祭礼
2月		2月	
3月		3月	
4月	中目黒駅周辺 中目黒さくらまつり 中目黒駅周辺 GT春まつり 区民センター周辺 目黒イーステリア桜まつり 区民センター周辺 目黒川桜まつり	4月	
5月	自由が丘駅周辺 マリクレールフェスティバル 自由が丘駅周辺 自由が丘 スイーツフェスタ 西小山駅周辺 西小山ミステリーツアー	5月	氷川神社 祭礼
6月		6月	
7月	区民センター周辺 リバーサイドフェスティバル	7月	祐天寺 み魂まつり
8月	区内観光ぶどう園 ぶどう狩り 中目黒駅周辺 目黒夏祭り 祐天寺駅周辺 夕涼みまつり	8月	氷川神社 祭礼
9月	区民センター周辺 目黒のSUNまつり	9月	大鳥神社 剣の舞 氷川神社 剣の舞 氷川神社 都立連合渡御 八幡神社 秋まつり 天祖神社 秋まつり 北野神社 秋祭り 烏森福荷神社 秋祭り 高木神社 秋祭り 碑文谷八幡宮 目黒ばやし 熊野神社 例大祭
10月	中目黒駅周辺 オータムフェスティバル	10月	龍泉寺 甘藷まつり 正覚寺 御会式 立源寺 御会式 円融寺 仁王尊例祭
11月	学芸大学駅周辺 Meguro Interior Collection 自由が丘駅周辺 自由が丘 女神まつり	11月	常円寺 御会式 大鳥神社 西の市
12月	祐天寺駅周辺 もみじまつり 池尻大橋駅周辺 花いっぱい祭り 学芸大学駅周辺 学大西口ウインターイベント 中目黒駅周辺 中目黒あかりまつり	12月	

※目黒区ホームページ及びめぐろ観光まちづくり協会ホームページ「めぐろ WALK」より作成



図Ⅲ-7-3 観光イベント・歴史的祭事

Ⅲ-8 感性をはぐくむ機能調査

みどりは、生育する気候風土に大きく影響を受けながら、花を咲かせ、葉を生い茂らせ、実をつけ、葉を散らす、一年の間でも変化に富んだ表情を持っている。日本人の四季に対する感覚は、みどりがつくり出す豊かな表情の変化によるところが大きい。また、長い時間生き続ける大径木は、その地域の歴史や生活の変遷を見つめ、後世の人々に伝えるタイムカプセルのような役割を果たす。

このようなみどりのもつ表情や性質からはぐくまれる豊かな感性は、区民が愛着を持って目黒区に住み続けるための大きな財産となる。

そこで、本項では以下の観点から、感性をはぐくむ機能に資する目黒区のみどりについて調査を行った。

感性をはぐくむ機能の観点

四季や旬を感じるみどり

- ・植物は四季を通じて成長し、花や実、黄葉・紅葉、落葉などの様々な状態を見せる。このような四季を通じた植物の変化は、人々に四季の流れを感じさせる機能を持つ。また植物が一团となって樹林や草地・公園・農地となることで、豊かな自然やいきもの、生活と深いつながりのある農を感じさせる機能を有する。

ふるさとへの愛着を培うみどり

- ・長い年月をかけて大径木へと育った樹木は、地域や人々の思い出のシンボルとなり、その樹木のある地域への愛着を培う機能を有する。

1. 四季や旬を感じるみどり

みどりの量の調査の樹木調査ⅠおよびⅡを基に、区民の感性をはぐくむみどりを四季の変化に着目して抽出した。抽出に当たっては主要な樹種 20,013 本（樹木調査Ⅰの樹木の 9 割にあたる樹種 36 種）と街路樹 5,885 本を対象に、その樹種ごとの季節変化の特徴（花を咲かせる、実をつける、紅葉・黄葉する、落葉する）とその変化の時期から整理した。その結果を、図Ⅲ-8-1 に示す。

「春」は、サクラ並木といった線的なみどりが多く、特に目黒川や呑川緑道、立会川緑道などのサクラ並木は、目黒区の代表的な景観ともなっている。このほかにもすすめのお宿緑地公園～清水池公園、中央緑地～油面公園においてもサクラ並木があり地域のシンボルとなっている。また、ケヤキなどの新緑を多くの公園・大学等で楽しむことができる。

「夏」は、イイギリ・タイサンボクの花、ヤマモモ・ウメなどの実が楽しめる樹木を区内全域で見ることができるが、それらの樹木が 1 箇所集中している場所は少ない。

「秋」は、目黒通り、東山小学校付近、洗足駅前、野沢通り、玉川通りに特徴的なイチョウ並木が確認できる。このほか、公園の多くでケヤキ・イチョウなどの黄葉を楽しむことができる。一方、紅葉を楽しめるカキ・クヌギ・イロハモミジは、黄葉する樹木に比べ集中している場所はなく、公園や街路にはあまり見られない。庭や施設の緑化の際のアクセントとして植栽されたものが多いと考えられる。秋はまた、樹木の実を楽しむ季節でもあり、区内では、スタジイなどのどんぐりや、プラタナスの実、イチョウのギンナンやカキの実のなど、遊びや食、形状や色彩といった面で特徴をもつ樹木が区内全域に存在する。

「冬」については、区内には落葉樹が多いことから、樹形を豊かに楽しむことができる。一方、ツバキやサザンカなど冬に花を咲かせる樹木はきわめて少なく、色彩という面では物足りないものとなっている。

表Ⅲ-8-1 四季の特徴のある目黒区内の樹木（100本以上）

樹種	本数	春	夏	秋	冬
スタジイ	4,118			実	
サクラ	3,550	花			落葉
ケヤキ	1,930	新緑		黄葉・実	落葉
イチヨウ	1,438			黄葉・実	落葉
アカマツ	506			黄葉	落葉
エノキ	451				落葉
ムクノキ	415				落葉
ミズキ	357	花			落葉
アオギリ	318		花	実	落葉
カキ	309			紅葉・実	落葉
プラタナス	301			実	落葉
マテバシイ	264			実	
ニセアカシア	212	花			落葉
モチノキ	199			実	
サンゴジュ	174			実	
クヌギ	163	新緑		紅葉・実	落葉
ヤマモモ	162		実		
イイギリ	158				落葉・実
ウメ	157	花	実		落葉
タイサンボク	153		花		
トウネズミモチ	150		花	実	
モッコク	144		花	実	
アカメガシワ	128	新緑			落葉
ネズミモチ	124		花		
イロハモミジ	112	新緑		紅葉	落葉
ユリノキ	105	花		黄葉	落葉
メタセコイア	104	新緑		紅葉	落葉
イヌマキ	100			実	
コナラ	100	新緑		黄葉・実	落葉

四季を楽しむほか、目黒区内では、さまざまな場所でいきものや自然を楽しむ活動が行われている(2013(平成25)年度区報、区ホームページによる)。

自然を楽しむみどり(例示)

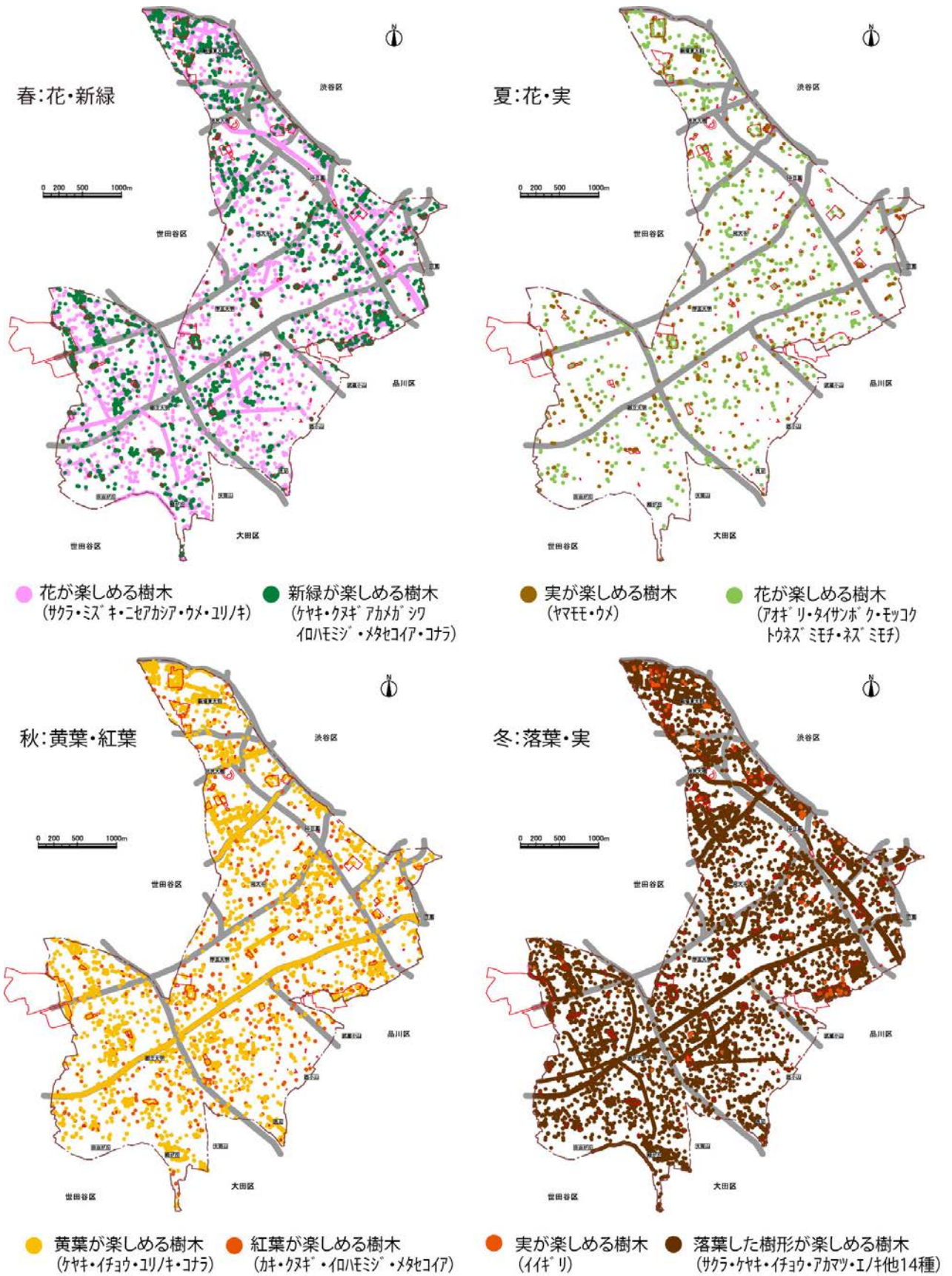
- ・碑文谷公園 ポニー園(ポニーやモルモット等の動物とふれあう場)
- ・駒場野公園 自然観察舎、駒場野自然クラブ、駒場野ホテルの会、デイキャンプ場
いきもの発見隊
- ・目黒川船入場 いきもの発見隊
- ・中目黒公園 「夏休み親子虫捕り教室」「秋の原っぱで遊ぼう」
- ・すずめのお宿緑地公園・古民家 お月見行事
- ・東山公園 「目黒の水辺の生き物を知ろう」(ビオトープ池)
- ・学校ビオトープ 小学校19校、幼稚園2園
- ・グリーンクラブ活動公園
- ・ウグイスの初音*

また、数少ないが区内には農地が2.52ha存在しており、その多くは生産緑地として保全されている。また、これらの農地や公園において以下のような区民が農業に触れ合うイベントが開催されている(2013(平成25)年度区報、区ホームページによる)。

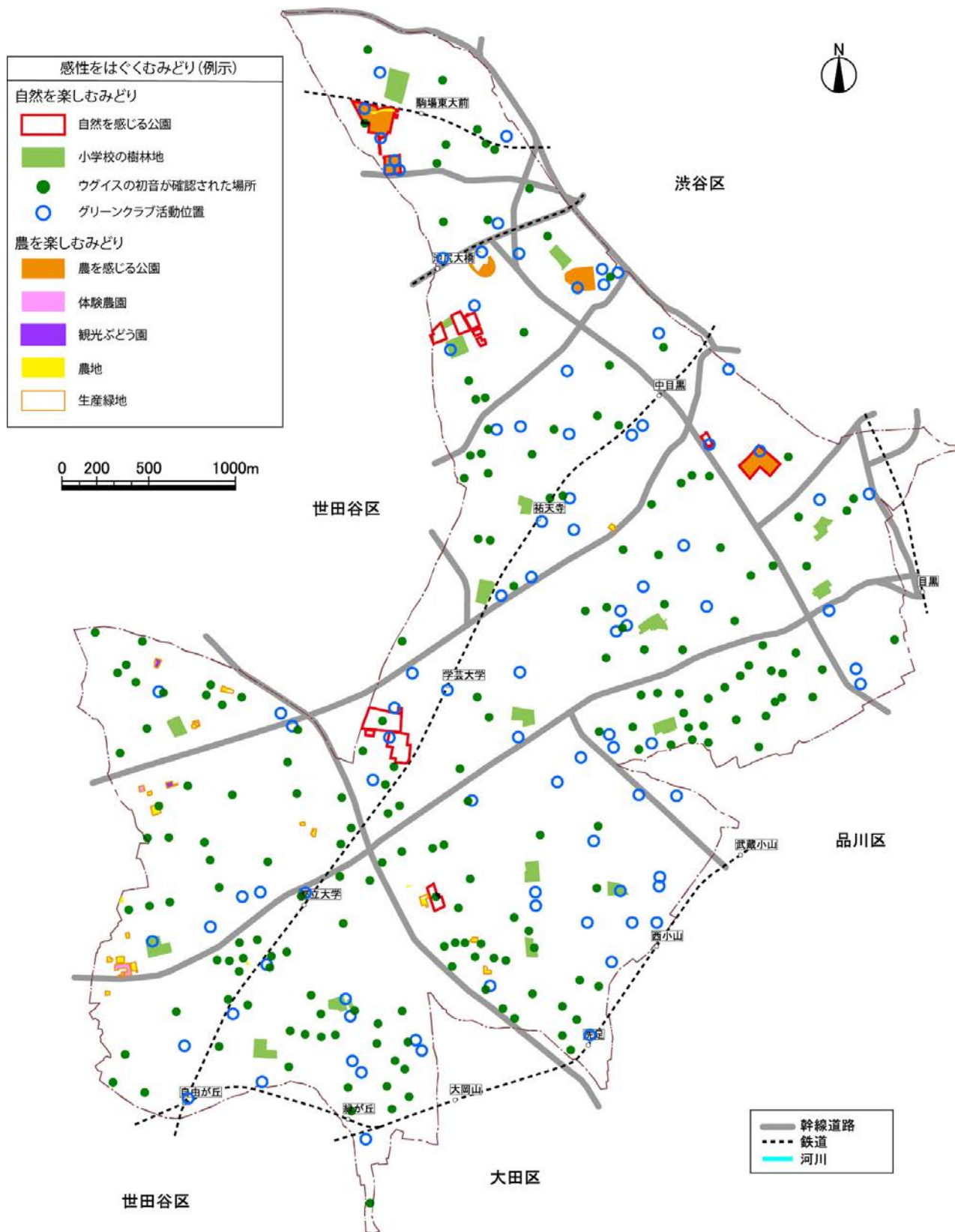
農を楽しむみどり(例示)

- ・農業を体験できる農地 じゃがいも掘り(八雲)、農とふれあう収穫体験(八雲)
ぶどう祭り(八雲、東が丘)
- ・駒場野公園 「食とエコ」わくわく探検隊(野外クッキング)
- ・中目黒公園 畑楽っ子くらぶ(畑作体験)、楽田くらぶ(稲作体験)、
ハーブづくり
- ・目黒天空庭園 ブドウ栽培とワイン造り、大橋里の森(屋上水田)
- ・菅刈公園 菅刈小学校農業体験

*ウグイスの初音:春になって初めてウグイスがさえずること。目黒区では、越冬期の10月~4月にさえずったものを初音記録としている。



図Ⅲ-8-1 四季を感じるみどり



図Ⅲ-8-2 自然や農を感じるみどり

2. ふるさとへの愛着を培うみどり

現況調査の樹木調査Ⅰを基に、目黒区内の大径木の抽出を行った。その結果を図Ⅲ－8－3に示す。

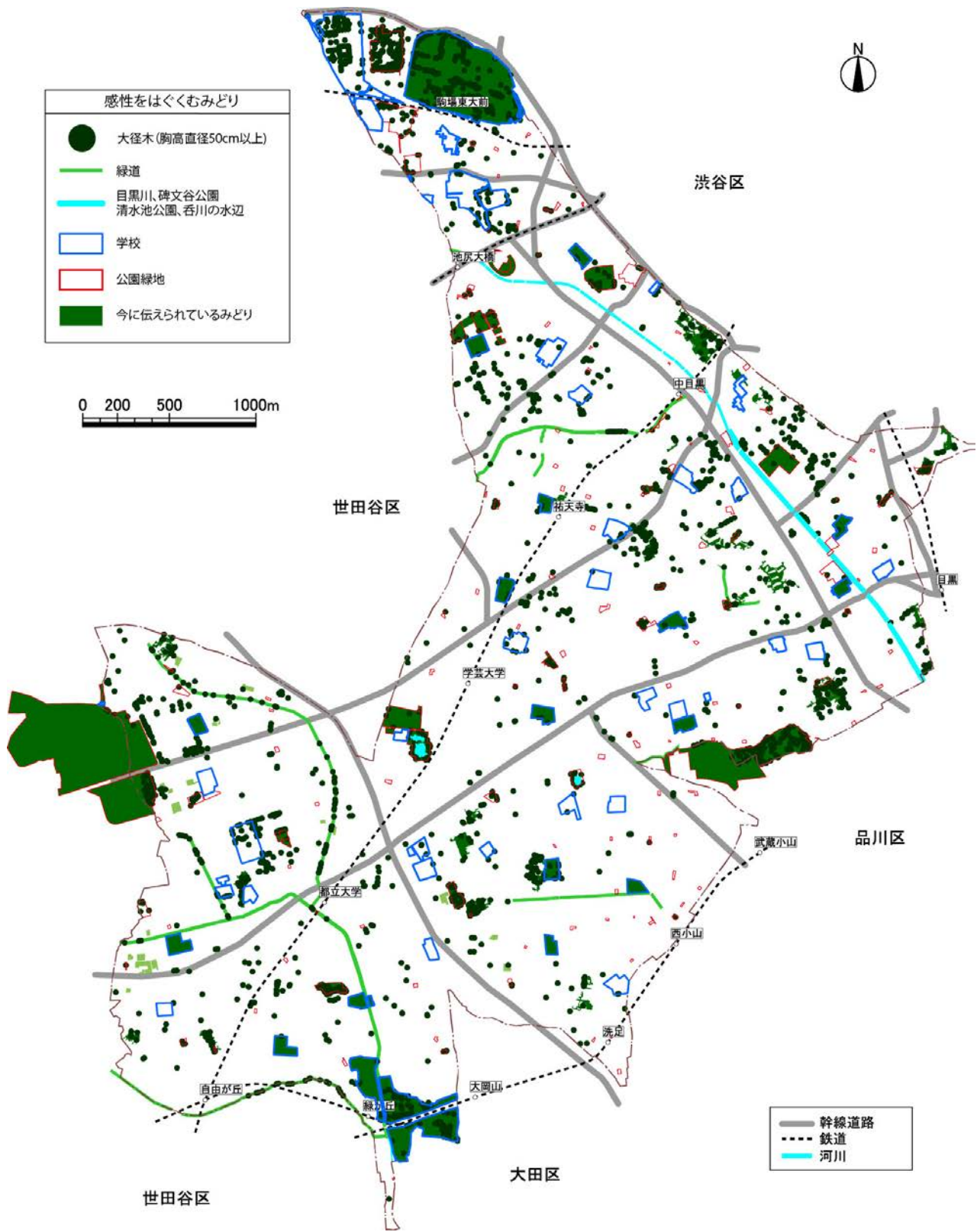
その結果胸高直径50cm以上の大径木は目黒区内に2,412本確認された。これらの大径木は地域や施設のシンボルになって、人々の心に訴えるもので、特に子供たちは学校生活や遊びの思い出にとって大切な要素となる。

この観点で大径木の存在する場所を確認すると、公園では、駒場公園、駒場野公園、菅刈公園、碑文谷公園、すすめのお宿緑地公園、中根公園、清水池公園、中央緑地、都立林試の森公園、都立駒沢オリンピック公園などの大規模な公園や、東京大学駒場Ⅰキャンパス、東京工業大学大岡山キャンパスなどにも多く存在している。祐天寺、龍泉寺（目黒不動尊）などの社寺にも多く存在している。一方、小規模な公園、小中学校などには多くて数本、場合によっては全く大径木の無い公園・学校なども見られる。

また、このほか、目黒川や呑川本流緑道等の桜並木は目黒区民にとって誇りに感じられるみどりといえる。また、目黒区生物多様性地域戦略では「めぐろの風景」として、以下のみどりを「今に伝えられている風景・新しい風景」として挙げられている。これらのみどりも目黒区への区民の愛着を培うみどりといえる。

表Ⅲ－8－2 今に伝えられる風景・新しい風景

	特徴	具体的な場所の例
庭のある風景	庭の木々やベランダの鉢植え、道路沿いの生け垣や花壇など、多様なみどりの広がる住宅地	目黒区全域
小さな水辺の風景	公園や校庭、庭にある小さな池	学校や公園のビオトープ池
屋敷林や鎮守の森、学校の森の風景	住宅地の中に点在する古くから伝わる屋敷林、神社の森、お寺の森、公園や学校の森など	駒場野公園、碑文谷公園、中根公園、宮野古民家自然園、すすめのお宿緑地公園、中央緑地公園、屋敷林、各地の社寺
草はらの風景	大きな公園の園路沿いや校庭周辺、線路脇の土手などの原っぱ、学校の野草や雑草園、芝生の校庭など	中目黒公園、東京大学駒場Ⅰキャンパス、東京工業大学大岡山キャンパス、碑文谷公園、線路の土手
雑木林や畑・水田の風景	人の手が入ることによって保ち、伝えられる林や田んぼ、畑	駒場野公園、菅刈公園、区民キャンパス、公園、各地の生産緑地
都市の森の風景	大学や研究所などに残る大きな樹林、目黒川沿いの崖に連続する樹林	都立林試の森公園、都立駒沢オリンピック公園、東京大学駒場Ⅰキャンパス、東京工業大学大岡山公園
広がりのある水辺の風景	碑文谷公園弁天池や清水池、海とつながっている目黒川や呑川下流	碑文谷公園弁天池、清水池、目黒川、呑川（緑が丘3丁目より下流）
新しいみどりの風景	都市の中で建物の屋上やベランダ、壁面の緑化、商店街でのフラワーポット等	目黒十五庭、目黒天空庭園



図Ⅲ-8-3 ふるさとへの愛着を培うみどり